

## 実務経験教員担当科目一覧

### リハビリテーション学科 理学療法専攻

No	科目名称	学年	単位	科目概要
1	医学英語	2	1	<p>医学医療トピックの英語に触れ、英単語や文章表現の習得を目指す。医療英単語の成立を理解したうえで関連単語を習得し、臨床現場で役に立つ会話表現を学ぶ。</p> <p>一般企業の海外部門での実務経験を有する教員が、英語によるコミュニケーションや異文化体験を活かし、実践的な英語の活用について授業を行う。</p> <p>対面授業で実施する。</p>
2	運動学 2	2	1	<p>理学療法・作業療法の大きな目的は、患者の活動障害の改善です。</p> <p>重力の働く地球環境下で皆さんは活動課題（寝返り、起き上がり、座位保持、立ち上がり、歩行そして日常生活活動）を達成しています。患者さんにとって、これらの活動課題が難しいのは、何故でしょうか。</p> <p>運動（活動）を関節の動き、それを作り出す筋活動や重力、そして制御する神経系も含め、ヒトの動きがどのように達成されるのかを皆さんの身体や使ったり、患者事例を紹介しながら説明します。</p> <p>なお、本科目は、急性期、回復期、生活期および緩和ケア病棟における理学療法の実務経験を有する教員が、臨床経験を活かし、実践的・具体的な例を示しながら授業を行います。</p> <p>タブレット端末を活用した双方向型授業を実施します。今年度、対面にて講義を実施する。</p>
3	運動学実習	2	1	<p>身体運動に関する実データを中心に多様なデータを分析し、これらを解釈する実践的過程を通じて、データを利活用するための技術、およびデータリテラシーを身につける。</p> <p>分析結果とその解釈を発表するグループワークを行うことで身体運動に関する基礎的理解を深めるとともに、データのまとめ方、プレゼンテーション技術について、タブレット端末を活用した双方向授業を通じて学ぶ。なお、本大学病院リハビリテーション部において理学療法士・作業療法士の実務経験を有する教員が授業を行う。</p> <p>本年度は対面形式にて行う。</p> <p>本科目は、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）における教育プログラムの一部を担う。</p>
4	老年学	2	1	<p>人口の高齢化、老年学と老年医学の概念、老化と老化学説、高齢者の精神・身体機能の低下、高齢者の病態と疾患の一般的特徴、高齢者によく見られる症候、老年病、高齢者の栄養、高齢者薬物療法、老年医学的総合機能評価（CGA）、終末期医療と医療倫理について講義する。</p> <p>なお、本大学病院において医師の実務経験を有する教員が授業を行い、療法士が臨床で必要となる知識を解説する。</p> <p>タブレット端末を活用した双方向型授業を実施し、毎回の講義において適宜理解度を確認するための確認問題をMoodleにて用いて実施し、理解度に応じた解説を行う。</p> <p>今年度、対面にて講義を実施する。</p>
5	救急医学	2	1	<p>救急医学とは、予期せず発生したけがや病気に対応するための医療全般を含む領域である。市中のみならず院内でも起こりうる緊急事態に直面した際に、適切な対応によって患者を救急医療の現場に引き継ぐことが求められる。本学大学病院においてリハビリテーション科の診療に携わる医師（医学部教員）が実務経験を活かし、療法室でおこり得る救急疾患を中心に、その概念と対処方法を講義、演習を行う。</p> <p>本年度は対面授業を行う。</p>

## 実務経験教員担当科目一覧

### リハビリテーション学科 理学療法専攻

No	科目名称	学年	単位	科目概要
6	リハビリテーション工学	2	1	<p>臨床・患者のニーズから生まれたリハビリテーション工学の歴史を通し、リハビリテーションにおける工学の役割について講義する。形態・機能の評価技術、磁気・電気を用いた刺激装置やロボットなど、リハビリテーションで用いられている機器について、その変遷および使用場面、適用法について具体的に説明する。評価技術の学修においては、MRIやCTなどの画像、脳波や筋電図をはじめとした時系列データについて、患者の評価や診断の材料となるデータに至るまでの情報計測技術や情報処理技術を理解することで、臨床情報を適切に読み解く方法を解説する。様々な患者のデータ分析に活用されつつあるAIについては、初期のトイプロブレムから深層強化学習までの変遷と特徴について実例を挙げて説明する。</p> <p>本科目は、ICT（タブレット端末およびe-learningプラットフォーム）を活用し、情報リテラシー教育、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）における教育プログラムの一部を担う。</p> <p>実務経験を有する理学療法士が講義・演習を一部担当する。</p> <p>今年度、対面にて講義を実施する。</p>
7	運動学習理論	2	1	<p>リハビリテーション医療を実践するために、運動学習理論の理解は必要不可欠である。本科目では、運動学習や運動制御に関わる神経メカニズムについて解説する。また、運動学習の主要因子である動機づけ、転移性、行動変化、保持・応用について理解し、効果的な練習方法を考えるための基礎を身につけられるよう授業を行う。なお、本大学病院リハビリテーション部において理学療法士の実務経験を有する教員が授業を行う。</p> <p>タブレット端末を活用した双方向型授業を実施する。</p> <p>本年度は対面授業を行う。</p>
8	検査・測定論実習1	2	1	<p>検査・測定論実習1では、理学療法評価に必要な手技について、実技を通じて説明する。具体的には、医療面接、形態計測、関節可動域測定(ROM-T)、徒手筋力テスト(MMT)において、OSCEも含めて実際に行う。</p> <p>タブレット端末等を用いた双方向授業を行うこともある。講義中に技術の修得状況を確認するために実技試験を行う。</p> <p>講義は、本大学病院リハビリテーション部などにおいて実務経験を有する理学療法士が担当する。</p> <p>今年度、対面にて講義を実施する。</p>
9	検査・測定論実習2	2	1	<p>循環機能検査・呼吸機能検査・反射検査・知覚検査・筋緊張検査・バランス評価・片麻痺運動機能検査・協調性検査・歩行分析・脳神経検査・高次脳機能検査・画像評価（レントゲン,CT,MRI,超音波画像）について、オリエンテーションの方法や検査手技、記録方法、各検査・測定結果の意味について実習を行う。</p> <p>実技試験を行い手技の修得度を確認する。一部、学生同士のディスカッションやプレゼンテーションを含む。</p> <p>なお、本大学病院リハビリテーション部において理学療法士の実務経験を有する教員が授業を行う。本年度は対面授業を行う。</p>
10	理学療法評価演習	2	1	<p>理学療法士は患者のもつ症状や障害を把握し、適切な治療介入をする必要がある。これまで検査・測定論で習得した理学療法プロセスについて理解を深めるため、本演習では中枢疾患と整形疾患の模擬症例を取り上げる。</p> <p>演習内では、グループワークを通して各疾患に対する病態を理解した上で各種情報を分析し、問題点の抽出、治療方針を立案までのプロセスについて整理する。</p> <p>なお、本大学病院リハビリテーション部において理学療法士の実務経験を有する教員が授業を行う。</p> <p>本年度は対面授業を行う。</p>

## 実務経験教員担当科目一覧

### リハビリテーション学科 理学療法専攻

No	科目名称	学年	単位	科目概要
11	義肢学	2	1	<p>義肢はリハビリテーションに必要な不可欠な治療手段である。様々な義肢が存在し、症例の残存機能、生活様式、要望により選択されるものである。療法士は義肢を障害に対抗するための有力な武器と認識して、詳しい知識を得る必要がある。切断と義肢について詳しく講義する。</p> <p>なお、本大学病院において医師の実務経験を有する教員が授業を行い、療法士が臨床で必要となる知識を解説する。</p> <p>タブレット端末を活用した双方向型授業を実施し、毎回の講義において適宜理解度を確認するための確認問題をMoodleにて用いて実施し、理解度に応じた解説を行う。</p> <p>今年度、対面にて講義を実施する。</p>
12	装具学	2	1	<p>装具とは、四肢・体幹の機能障害の軽減を目的として使用する補助具のことで、運動器疾患や神経・筋疾患を中心に頻用されている。</p> <p>装具総論では、装具の歴史、分類、目的、装具処方から完成までの流れ、装具に使用される材料について講義し、各論では装着部位分類に従って名称・構造・適応について説明する。</p> <p>本学大学病院リハビリテーション部において理学療法士の実務経験を有する教員が実務経験を活かして、理学療法士に必要な知識を身に付けるために装具について授業をおこなう。</p> <p>本年度は対面授業を行う。</p>
13	義肢・装具学実習	2	1	<p>本実習では下肢装具の作製を通じて装具の作製過程や義肢装具士の役割について説明する。また、作製した装具に関してグループワーク、プレゼンテーションを行い、装具の構造、特性、適応について整理する。</p> <p>義肢の構造について説明し、義肢に触れながら構造や特性を確認する。</p> <p>装具や義肢の構造や取り扱い方、義足異常歩行とその原因についてグループワークを行う。</p> <p>装具の足継手の調整方法を説明し、体験する。</p> <p>なお、本学大学病院リハビリテーション部において理学療法士の実務経験を有する教員と、義肢装具作製企業において義肢装具作製の実務経験を有する教員が実習を担当する。</p> <p>本年度は対面授業を行う。</p>
14	日常生活活動学	2	1	<p>日常生活活動（以下、ADL）の総論を本講義では行う。ADLの概念や評価、ADL動作の特徴理解、動作指導方法、代表的な福祉用具および介助法の基本を学び、臨床応用させる知識を修得する。</p> <p>講義内容の理解度確認のため必要な分野は確認問題と解説を実施する。本大学病院リハビリテーション部において実務経験を有する理学療法士が授業を担当する。</p> <p>本年度は対面授業を行う。</p>
15	日常生活活動学実習	2	1	<p>医学的リハビリテーションにおける代表疾患において、障害の有無が日常生活活動動作に与える影響やその特徴を説明する。さらに、日常生活活動動作の改善に向けた補助誘導方法や補助具の選定等について教示及びグループディスカッションを行い、疾患別運動療法実践の糸口をつかむ。</p> <p>日常生活活動動作を可能にする車いす、杖などの福祉用具その他自助具につき、疾患に適応した使用方法および指導方法を説明する。また、疾患に応じた住宅環境整備についてグループディスカッションを行う。</p> <p>なお、本大学病院リハビリテーション部など複数の病院施設において理学療法士の実務経験を有する教員が授業を行う。</p> <p>本年度は対面授業を行う。</p>

## 実務経験教員担当科目一覧

### リハビリテーション学科 理学療法専攻

No	科目名称	学年	単位	科目概要
16	運動療法学	2	1	<p>運動療法学は、理学療法の最も大きな柱として位置づけられている。本講義では、関節可動域運動や筋力増強運動をはじめとして、臨床で頻りに用いられる運動療法について、その基礎となる事柄とともに、治療の原則や基本的な方法を講義する。</p> <p>講義資料は講義資料配信システムにより学生のタブレット端末に配信し、毎回の講義における理解度をMoodleを用いたレポート提出により確認し、理解度に応じた解説を行う。</p> <p>本大学病院リハビリテーション部での理学療法士の実務経験を活かし、理学療法士に必要な能力を身につけるため、実践的な運動療法について授業を行う。</p> <p>対面形式で実施する。</p>
17	理学療法治療学1－中枢1	2	1	<p>脊髄を損傷した場合、その高位（髄節レベル）に応じた運動麻痺や感覚障害、自律神経障害などが発生する。本講義では、脊髄の解剖学の知識を整理することから始め、脊髄損傷の病態・障害像、急性期から回復期の理学療法評価・訓練について講義する。</p> <p>なお、本大学病院リハビリテーション部での理学療法士としての実務経験を活かし、脊髄損傷患者に必要な理学療法について授業を行う。講義では、Moodleを用いて理解度を確認するための確認テストを適宜実施し、理解度に応じた解説を行う。本年度は対面授業を行う。</p>
18	理学療法治療学3－中枢3	2	1	<p>脳内で血管が詰まったり、破裂すると片麻痺を呈します。本講義では脳卒中片麻痺を中心とした中枢神経障害の症状・理学療法の検査項目・理学療法の対応方法について講義します。さらにデモンストレーションや自身の身体を使って脳卒中片麻痺患者の動作の困難性への理解を深めます。</p> <p>なお、本科目は、急性期、回復期、生活期および緩和ケア病棟における理学療法の実務経験を有する教員が、臨床経験を活かし、実践的・具体的な例を示しながら授業を行います。</p> <p>本講義は、対面形式で実施する。</p>
19	理学療法治療学5－整形2	2	1	<p>代表的な整形外科疾患の病態と治療（保存と観血的）を再学習し、その整形外科的疾患に対応する理学療法の考え方と、評価・治療の方法を理解し、具体的な治療プログラムを立案できるように講義を行う。また、理解を深めるため、適宜演習を取り入れながら進める。なお、本大学病院リハビリテーション部において理学療法士の実務経験を有する教員が授業を行う。</p> <p>本年度は対面授業を行う。</p>
20	理学療法治療学8－内部障害	2	1	<p>内部障害リハビリテーションに必要な解剖、生理を講義する。</p> <p>代表的な内部障害疾患とその病態について講義する。</p> <p>疾患に応じたリハビリテーションプログラムについて説明する。</p> <p>講義中の重要な単元において、理解度を確認するための確認問題と解説を行う。</p> <p>なお、本大学病院リハビリテーション部において実務経験を有する教員が授業を行う。</p> <p>本年度は対面授業を行う。</p>

## 実務経験教員担当科目一覧

### リハビリテーション学科 理学療法専攻

No	科目名称	学年	単位	科目概要
21	歩行再建学	2	1	<p>歩行は、理学療法の主要対象となる日常生活能力である。</p> <p>本講義では、正常歩行の運動学的、運動力学的基礎、バイオメカニクス、異常歩行の種類を学び、運動学習理論に基づいて歩行練習の方法や、練習を支援する装具やロボットに関しても講義し、歩行再建に関する知識を網羅的に学修する。</p> <p>講義資料は講義資料配信システムにより学生のタブレット端末に配信し、レポートはMoodleを用いて提出させる。</p> <p>本大学病院リハビリテーション部での理学療法士の実務経験を活かし、実践的な歩行再建法について講義する。</p> <p>本年度は対面授業を行う。</p>
22	物理療法学実習	2	1	<p>物理療法は理学療法において、運動療法とともに2大治療技術として広く行われている治療法である。理学療法士には、各種物理療法のもつ物理的刺激による生理学的作用の理解、ならびに物理療法機器を適切かつ安全に使用する技術が求められる。本科目では、1年次に学習した物理療法学の基礎を復習しつつ、実際に臨床場面で使用される頻度が高い物理療法を中心にその使用方法を身につけることを目的に実習を行う。なお、本大学病院リハビリテーション部において理学療法士の実務経験を有する教員が授業を行う。</p> <p>本年度は対面授業を行う。</p>
23	客観的臨床能力演習 2	2	1	<p>臨床上必要な知識・技術・態度（特に態度）について、講義内容に記された項目について講義・演習する。学生同士の小グループ（模擬患者役、療法士役、実施内容確認役）に分かれ、各自に対し実技試験を実施する。</p> <p>なお、本大学病院リハビリテーション部において、理学療法士・作業療法士の実務経験を有する教員が授業を行う。本年度は対面授業を行う。</p>
24	医用情報処理学	3	1	<p>コンピュータの普及によって、多様なデータベースを療法士自身で作成できるようになり、日々の療法士業務で活用されている。本講義ではデータベースの基本的な構造とその作成について講義する。また、データベースの作成・編集、およびデータのグラフ描画に関わる様々なMS-Excelの機能に習熟することを目的とした演習を行う。データをグラフ化するなかで、データの特性に対応したグラフを選択する論理過程や、情報を適切に表現する技術を習得する。</p> <p>本科目は、ICT（タブレット端末およびe-learningプラットフォーム）を活用し、情報リテラシー教育の一部を担う。</p> <p>実務経験を有する理学療法士が講義・演習を一部担当する。本年度は対面授業を行う。</p>

## 実務経験教員担当科目一覧

### リハビリテーション学科 理学療法専攻

No	科目名称	学年	単位	科目概要
25	コンピュータープログラミング	3	1	<p>工学、理学、医学をはじめとした幅広い専門的データ処理を行うためのプログラミング言語である「MATLAB」を活用して、変数、配列インデックス付け、算術演算、ループと条件付きステートメントなど、C言語やPythonなど様々なプログラミング言語と共通した基本的構造について講義する。また、実践的なデータサイエンス教育となるよう、企業の各種活動支援ロボット（機器）及びその基礎データを用いて実社会から得られた人間の行動データや生体信号についての比較を統計解析などを行い、また、これらの専門的解析を行うためのプログラミング技法（アップロード、信号処理、データ可視化など）を習得することで企業への問題解決策を提案できる能力を習得する。</p> <p>本年度は対面授業を行う。なお、本大学病院リハビリテーション部において実務経験を有する理学療法士が授業を担当する。</p> <p>本科目は、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）における教育プログラムの一部を担う。</p>
26	言語機能学	3	1	<p>コミュニケーションをとること、食事をすることは、人間が生きて活動するために欠かせない重要な機能である。本講義では、1.人だけが自由にことばを操るようになった背景、2.ことばを生み出す解剖学的・生理学的メカニズム、3.ことばを含めたコミュニケーションの機能、および摂食・嚥下のメカニズム、その発達、獲得、老化（減退）について学習する。なお、本大学病院リハビリテーション部において言語聴覚士の実務経験を有する教員が授業を行う。</p> <p>対面授業を基本とする。</p>
27	言語療法学	3	1	<p>言語聴覚障害の特徴とその発生機序、症状の概要を学習する。</p> <p>コミュニケーション障害と摂食・嚥下障害を疑似体験することにより、目に見えない障害である言語聴覚障害と摂食嚥下障害に関して、障害によって生じる一次的問題と付随して生じる二次的問題について理解する。また、介助者の疑似体験を通し、介助者が抱える精神的、社会的問題についても同時に理解を深め、リハビリテーションの目的とあり方について深く考える。なお、本大学病院リハビリテーション部において言語聴覚士の実務経験を有する教員が授業を行う。</p> <p>対面授業を基本とする。</p>
28	言語病理学	3	1	<p>理学療法、作業療法の対象となる方々の多くは、種々のコミュニケーション障害を合併している。患者を全人的に理解しリハビリテーションを行っていくためには、これら障害を理解し適切な対応をとることは必須である。本講義では、コミュニケーション障害を含む高次脳機能障害に関する文献的研究とグループ討議により様々な側面から分析し、深く考察する。なお、本大学病院リハビリテーション部において言語聴覚士の実務経験を有する教員が授業を行う。</p> <p>対面授業を基本とする。</p>
29	地域リハビリテーション学	3	1	<p>現代の社会背景とともに地域ケア・地域リハビリテーションに関わる諸制度を知り、地域における虚弱高齢者や障害児・者に関する各制度上の理学療法士の役割および業務内容を理解する。障害児・者が在宅生活を維持するための環境整備の考え方や対処方法を理解する。</p> <p>授業を行うのは、本大学病院リハビリテーション部など複数の病院施設や居宅介護支援事業所や地域包括支援センターにおいて理学療法士や地域理学療法の実務経験を有する教員である。講義中の重要な単元において、理解度を確認するための確認問題と解説を行う。</p> <p>本年度は対面授業を行う。</p>

## 実務経験教員担当科目一覧

### リハビリテーション学科 理学療法専攻

No	科目名称	学年	単位	科目概要
30	職業関連活動学	3	1	<p>地域における理学療法士・作業療法士の役割も増え、障害を持ちながら就労を目指す人々への役割も求められている。</p> <p>就労支援に関する理学療法士・作業療法士の役割を修得するため、職業リハビリテーションの概要、障害者雇用の現状、就労支援施設における現状、就労支援のあり方、医療的援助におけるリハビリテーションの重要性や実施方法について講義する。また、国家試験に出題される内容についても解説、講義する。</p> <p>なお、就労支援の実務経験を有する教員が授業を行う。本年度は対面授業を行う。</p>
31	理学療法研究概論	3	1	<p>本科目では理学療法における研究の意義、具体的方法論、基本的統計概念とその分析法について講義する。さらに論文抄読、データ処理、研究計画書作成を体験する。</p> <p>本科目は、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）における教育プログラムの一部を担う。</p> <p>毎回の講義において、e-learning（Moodle）を用いて適宜理解度を確認するための確認問題を実施し、理解度に応じた解説を行う。なお、本大学病院リハビリテーション部において理学療法士の実務経験を活かし、理学療法に関する研究方法について授業を行います。</p> <p>本年度は対面授業を行う。</p>
32	臨床運動学	3	1	<p>対象者の運動障害を運動学に基づいて評価し、正しく解釈することは、理学療法士にとってとても大切な能力である。本科目では、運動、姿勢、動作にみられる異常を運動学的に捉えるための考え方を示す。理解を深めるため、一部演習を取り入れ、実際に身体を動かしてもらいながら授業を進める。なお、本大学病院リハビリテーション部において理学療法士の実務経験を有する教員が授業を行う。</p> <p>本年度は対面授業を行う。</p>
33	病態運動学	3	1	<p>理学療法の対象となる中枢神経疾患や骨・関節疾患は、姿勢や運動障害との関連において様々な病態を呈する。病態運動学は運動学を基礎として、臨床的な視点から、運動障害と能力低下に焦点を当てながら疾患別に病態の捉えかたを講義する。さらに、理学療法における運動障害の評価や治療、治療効果判定に応用する方法についても講義する。</p> <p>毎回の講義において、e-learning（Moodle）を用いて適宜理解度を確認するための問題を実施し、理解度に応じた解説を行う。</p> <p>なお、本大学病院リハビリテーション部において理学療法士の実務経験を活かし、病態運動学について授業を行います。</p> <p>本年度は対面授業を行う。</p>
34	表面解剖学	3	1	<p>機能評価の手段として視診、触診の位置付けについて学ぶ。解剖学、運動学などで学んだ身体の構造と機能を、皮膚の上から触れうる骨、筋肉、関節、靭帯、神経、血管などの視診と触診（実技）を通して立体的に学習する。講義中にMoodleを活用し、理解度確認を行う。本科目は、大学病院リハビリテーション部において理学療法士の実務経験を有する教員が、その経験を生かし、実践的な触診技術について授業を行う。</p> <p>本年度は対面授業を行う。</p>
35	理学療法教育・管理学概論	3	1	<p>理学療法士は国家資格であるため、専門的な知識・技術を有するだけでなく、国が定めた制度の中で適切にその力を発揮する必要がある。また、所属する組織や地域の中で他者と連携しながら業務を遂行する力が求められる。関係する諸制度を理解し、理学療法士として業務を適切に管理しながら遂行するために必要な内容について講義する。本科目では、理解を促すために、適宜デジタル視聴覚教材を用いて講義を進める。なお、本大学病院リハビリテーション部において理学療法士の実務経験を有する教員が授業を行う。</p> <p>本年度は対面授業を行う。</p>

## 実務経験教員担当科目一覧

### リハビリテーション学科 理学療法専攻

No	科目名称	学年	単位	科目概要
36	運動療法学実習	3	1	<p>実習を通して運動療法学の理解を深め、臨床で必要とされる技術の習得ができるようにする。内容は、関節可動域運動、筋力増強、治療体操各種、ストレッチング、促通手技等を行う。また、临床上、重要となる態度面の習得（患者に対する話し方、接し方、触れ方）などを学習する。さらに、ボディメカニクスに応じた理学療法士自身の身体の使い方などを習得する。一部、学生同士のディスカッションやプレゼンテーションを含む。</p> <p>講義資料は講義資料配信システムにより学生のタブレット端末に配信し、レポートはMoodleを用いて提出する。</p> <p>本大学病院リハビリテーション部での理学療法士の実務経験を活かし、理学療法士に必要な能力を身につけるため、実践的な運動療法について講義・実習を行う。本年度は対面授業を行う。</p>
37	理学療法治療学2 - 中枢2	3	1	<p>理学療法士には神経・筋疾患の病態と障害像を理解した上で適切な理学療法を実施できることが求められる。本科目では以下の疾患について病態、障害像、理学療法評価、治療の進め方と留意点について知識を取得できることを目標に講義する。</p> <p>講義で扱う疾患：パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症、ギラン・バレー症候群、ポリオ、ポリオ後症候群、多発性筋炎、皮膚筋炎、筋強直性ジストロフィー、脊髄小脳変性症</p> <p>本学大学病院リハビリテーション部において理学療法士の実務経験を有する教員が実務経験を活かし、理学療法士に必要な知識を身につけるために神経・筋疾患の理学療法について授業を行う。</p> <p>本年度は対面授業を行う。</p>
38	理学療法治療学6 - スポーツ	3	1	<p>本科目では、スポーツ損傷に対する理学療法の総論や、各スポーツ損傷の発生要因、理学療法評価や治療内容について講義する。また、損傷予防や、損傷の急性期、とくに急性痛に行うべき理学療法についても講義する。加えて、タブレット端末等を用いた双方向授業を行うこともある。</p> <p>なお、本大学病院リハビリテーション部での理学療法士の実務経験を活かし、スポーツ損傷に関する理学療法について講義を行う。本年度は対面授業を行う。</p>
39	理学療法治療学7 - 呼吸	3	1	<p>代表的な呼吸器疾患とその病態について学習する。</p> <p>呼吸リハビリテーションに必要な解剖、生理、運動学を理解し、評価・検査の方法を学習する。</p> <p>呼吸器疾患に対する運動療法とリスクを理解する。講義中の重要な単元において、理解度を確認するための確認問題と解説を行う。</p> <p>なお、本大学病院リハビリテーション部において理学療法士として実務経験を有する教員が授業を行う。</p> <p>本年度は対面授業を行う。</p>
40	客観的臨床能力演習3	3	1	<p>学生同士の小グループ（模擬患者役、療法士役、実施内容確認役）に分かれ、講義内容に記された項目を通して临床上必要な能力低下に対する介入および動作分析について学習し、各自に対し試験（客観的臨床能力試験：OSCE）を実施する。</p> <p>なお、本大学病院リハビリテーション部において、理学療法士・作業療法士の実務経験を有する教員が授業を行う。</p> <p>本年度は対面授業を行う。しかし、新型コロナウイルス感染拡大状況によって、一部遠隔授業で実施する場合もある。</p>

## 実務経験教員担当科目一覧

### リハビリテーション学科 理学療法専攻

No	科目名称	学年	単位	科目概要
41	地域理学療法学	3	1	<p>医学モデルから生活モデルへの転換を含めて、理学療法士は医療機関以外に実生活の場で対象者支援を行うために必要な基本的知識を修得する。地域包括ケアシステムが展開されている現在、理学療法の領域の拡がりを見据えて、介護予防、健康増進、災害支援、終末期ケアなどの医療機関以外での多くの活動についても理解する。また、e-learning (Moodle) を用いて適宜理解度を確認するための確認課題を行う。</p> <p>なお、本大学病院リハビリテーション部において、理学療法士の実務経験を有する教員が授業を行う。</p> <p>本年度は対面授業を行う。</p>
42	臨床研究	3	2	<p>担当教員の指導下、班別の研究活動を行う。具体的には各学生、グループがテーマを決め、学生自ら実験の計画、データ収集、分析ならびに発表を行う。最終的には卒業論文としてまとめる。</p> <p>なお、本大学病院リハビリテーション部において理学療法士・作業療法士の実務経験を有する教員が授業を行う。</p>
43	地域リハビリテーション学実習	4	1	<p>臨地実習での経験を通して、臨床実習指導者の指導・監督のもと、地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割を理解し、地域包括ケアシステムに関与する関連専門職の役割を理解する。なお、一部は本大学病院リハビリテーション部において理学療法士の実務経験を有する教員が授業を行う。</p>
44	理学療法学特論	4	1	<p>理学療法士の職域全体における疾患の多彩な障害像を把握し、現状の理学療法で行われている評価法、治療法について講義する。臨床思考過程における、評価結果からのICFを用いた生活および個人の全体像の把握を行い、問題点の抽出をする。さらに理学療法介入へ思考を進めるための講義をする。講義対象範囲は国家試験問題の内容に沿って実施し、国家試験に必要な知識の定着を目指す。</p> <p>ICT利活用による自主学習教材を提供する。</p> <p>なお、本大学病院リハビリテーション部にて理学療法士の実務経験を有する教員が授業を行う。</p>

実務経験のある教員による授業科目：45単位

該当科目数：44科目